

5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5

卷
5
508
32



志
足利家

三家

吉良 石橋 遷川

三管領

斯波 細川

畠山

四職

山名 一色 京極 赤松

叶内二家ハ長柄の塗雲免許ウ。今後紀伊戸
三家塗雲に蒙特々不徳の例トス。

。御書此序子松君と忠輝君上幕と宿子すれり皆

山城守忠輝君と後ノ子松君と忠輝君外と宿子すれり皆

西月松君也。此後序子松君と忠輝君と宿子すれり又信君

平思親をうそひまよひるふのくそくをかがみ

寧相利長のみ好むと云ふ
事あつまひへど也

首佛家小薦章講
トセモ既述達と其結果
ノ事と余め付貰之其自心と殖主の費に
傳せり先市井の跡費此後何と若の為てヒトヨリ従
御す意に本居宣氏と云ふ者宣教院より著
上京今川に在る所より上京府行跡が達主北畠
氏政と名傳有り一包手天幕を以ては捨物也
行持れども其裏書と云ふれど

行總達レ代和舊毛車事休於後改今班源也大五年
不改去例のレノモ可也改勅上八自乞可加
但行以參也主と不至毛考仰御解

上京今出川

大東方左史廣文叔

けをかくと、時後の方へと向ひ

。相州看近は清淨光寺十にて也の他河上人、南歸の
時未小食、官の門を過ぎ度也。是が有歌及全
子親兵北御師也。

。後も本院西狩の後ハ朝憲いよ^モ麿毛^モ御^モ嘗^モ
支多^モに多^モ也^モ正憲^モの^モ内^モ智^モ院^モ龜山^モ上^モ皇^モを^モ漫^モ念^モ
と^モ江^モの^モ多^モ獻^モ志^モ也^モしに^モ本^モ浦^モて^モ本国^モに^モ史^モ
貞時^モ勤^モき^モや^モう^モ上^モ白^モ皇^モと^モ遠^モ慮^モに^モ引^モひ^モを^モ嘗^モ
め^モ仕^モや^モ一^モ度^モも^モす^モわ^モか^モの^モ豐^モ書^モと^モ名^モ小^モ納^モ

正中元年在世也と聞るが如きは是
時も時事にて近臣と扱ひ通じ奉
久をあつて其の先も忠と號と曰ひ
れど其後も之に近づくに止むに徳
主に附屬する御子と仰ひ多き事と
皇家に歸すわざりて否威江を以て
是をハコラムに及ハざりえり

又一印の日ありて是印
印ハぬま 亦うりにま
印ハアリム はい印ハ
送れの事に於て此印が用ひ
新はし印見合せの事

も憎むをさへやう

老の身となりと
金を取れぬ事無

。五辛

荆林楚吳國時記五辛盤アシタカ時珍り記と檜
荀ヒトセシナ称シニク韭ヒラ莢ヒツヂ芥葉カラシハ
佛書北五辛林九網經大蒜荳葱薤茞葱菊葱
興ヒカルハ我國ニナキナノ名ナリ云應ヒコロヒ音ヒコロヒ村六阿魏
ナリトイヘト阿魏ハ叶ト木トノ二種アル由アリ又ハ
玄草至ナ玄ト或書ニ見ヘ侍ヒツル古來定カナテカル故近年
門東賄忌合金ニモ真葉知サル由ヲ記シ玉ヘリナニ壁支
シタル者ヒツルシカハ知サル今叶阿魏ナルモノイフシト云シハ柳營
ノ有司豈是ヲ知サルヘシヤ定カナフスト天下今シ
玉ハナルハ實ニ國家の昭典ハト覧入へ侍ル

。道家五辛ハ韭ヒラ芸薹ヒツヂ胡葱ヒツヂ蒜ヒラ薤ヒツヂ

。本朝文粹都良香所述道場法師傳云法師者尾
張國阿育郡人也ト尾丸古ヨリ八郊ニシテ阿育ヒツヂ
受知誤り力道場法師生地村里何レ所ト云記
法師生レテ靈蛇頸ヒツヂ纏ヒツヂ首尾相至リテ後ニ垂
トえヘリ今対知郡尾頭村アリ蓋兒生地又道場
南都元興寺ノ僧トナルト今尾頭村元興寺ノ旧跡
尾別ヒツヂノえ真言寺ハ南都寺也シカリテ造レルニ度
寺ノ地石瓦矣シ好事ノ者破トス何しノ時ニマキ牛生
村ニ移シ今ト顧真言寺ト稱シ奉願寺ノ徒トナリ庵
地ニハ蘇軒師當主ノ残しり古佛破像毫傳ヒツヂ紫

源為朝所立ト為朝塚ハ古渡村東自承寺ノ近境アリ
不審為朝ノ尾張死セシト為朝瓦見ニテ 諸セル 章フニ別為名云
人アリシニ

。戰場ニ螺コ吹ハ胡俗ナリ賢ノ恩無ナト、ア宝螺、
称ハ妻ヨリ浮屠サノ書ニ山山タリ

。洛東淨土寺村ニ安西也。總山本中山山西家村ノノ
課ナシ是ハ義政意照院ニ移ラ玉ヒシ時近仕せし人舊
トカマセニ云安西柿ハ木安西兵ノ家ニ栽シ福ナリトテ
原賴義朝尼東奥奥ヲ征シ賊ノ耳ヲ殺テ京師撃ニ
來リ一地、埋ニ堂ヲ建等身院ノ像ヲ安置セテ。今ち條
坊ノ西側院ノ西耳輪堂是ナリ。豈巨秀吉朝鮮政權人

。耳ヲ取り洛東方廣寺境ヘ埋ニ耳塚呼ニ耳輪堂、
例ヲ絶レシトナシ

。紀別道成寺鐘今京師妙滿寺日蓮ニアリ銘曰紀
別日高郡矢田庄

。天武天皇勅願所道寺治鐘勅進此別當法燈足秀
檀那源萬安丸并吉田源賴秀合山諸檀越甲母全額
道願少主太丈守長曆十四歲亥二月十日

。按スルニ源氏ハ嵯峨天正弘仁五年五月八日自天丈人に源
姓ヲ賜先此延暦ノ時源サ萬安及源賴秀等凡ナト
不審ナリ若延暦ノ字記シル者歟

。名古野城主今川左馬助源氏豊安中野益德重吉嫁

ケル重吉、女姓大田祝司ノ家ナリ。カハ重吉先後墨書き
居し其妻ノ為ニ禪刹ヲ建テ香火ノ場トセリ。秋月没後
彼妻女秋月尼額宗桂禪尼ト称ス。忌月故十日開基僧
父跡同畠田大中寺十一世ノ住持宗寔和尚重吉、庵長
三年六月晦日因鵠於テ卒セリ。法名ハ字雲宗參品今
其牌子其三寺ニ安置セリ。

○矣丈一杓ノ一壯ト東呉ハ都印ヲ三餘贊筆云用テ丈一杓
謂文一壯。況在中也。曰以壯人之法其言若テ壯人當依數
老幼羸弱量力減文トイヘリ。庸醫人ヨレテ壯盛ナシム
ル故壯トイフハ況代々説ナ見サル誤ナリ。

○毛利掃部助及加賀井波八郎安久尾外中嶋郡大須左

小野村真福寺の象走ちしとより。豊臣家の幕下ニ
屬シ宋地の朱章を有す。毛利氏ハヤカニ村と號セり。
後村上院皇子仁瑜法親王直ノ福寺。松の叶は萬葉坊
友ぢし宮迂化の後自所を押伏して住候セリ。と云
。智光不肖にて養桂白猿をやうやくと称セリ。

葵



桂



五ハ木にて。乞ノ不
かのれ。かのれ。かのれ。

○信長法事に近侍を脇に立候ス。向に遂て大祭に柳柳
を拈りむ。叶に田舎北貴。又一叶の人形書。小
世ハ北貴道の様。人鬼の御酒あり。之ゆ

。信長殺害之後大政大臣と仰れ信忠に左官を
拂ひは一介の中參内拜せきの礼も冠章の狀とし改定
して賜官とかられて云々右ニまわ色の後

。法華宗追郤 院宣案

被院宣稱近日有類之僧徒為諸宗敵對禁誡文
頗嚴制先軍而無悔憲章不恐勅令左居洛陽
雜黨於道場引率子弟同明妄稱法華持者是之
自宗鉢被天台之所說月戒之教相違如斯乎雖欲
展轉隨喜之功德忽犯誹謗正法之罪障以外道
行義偏表邪惡極本朝之比附科坐哉為法不
可不禁示宣仰廳衛追郤京都院宣如斯

仍執達如件

正慶二年二月八日

擢中納言

吉田中納言也

謹上中御門中納言

別當殿

別當宣

法華宗門事

往禮仰求又文旨彼一類ノ僧徒早可被追却洛陽之
旨別當殿仰所候也

仍執達如件

三月十一日 前土佐守榮素奉

謹上高倉博士太史判官殿

。家祖公墓誌 人見友元制

寛永十八年 辛酉八月三日降誕

征夷大將軍 従一位右大臣

延寶八庚申五月八日薨

甲子有院殿賤正一位大相國公

御仕記位ノ

正二位源家勅

右可贈正一位

中務威振万邦化溢四海曾知安世武德
亘今宣遵鴻烈之禮或蒙贈呂翊之

恩可依前件主者施行

延寶八年庚申五月八日

中務卿關

正四位下行中務太輔臣源朝臣資冬宣

正四位下行中務少輔臣藤原朝臣祐宣奉行

。鹿陽木貫比水也年歲八源氏又云藤原等參謀其譜
とあるも極もろに春日守源氏水也村住本郎西園家系
累りく高望王の三男法守府將軍平良兼の子武寧
公雅の裔なり治承四年四月の下知狀某代北嘉狀
多一ノ文中にも承平令節の時予母云本姓平七物
少文子而生役の附を承約しての少文少子年をね
セリトモ水せ致頸立永十九年七月廿九日
考其口宣今以次第ナ傳事也ハ立永十九年七月廿九日
感立寺に葬一義や後任奉事宇智船主と寫也

先祖山田郡志翁郡司職とへ傳承され補助御事務
有水也の廢流れ志誠氏も水代代也と號せ上事代封
立子を呼ぶ地オトナシニシ水代久之原御田口御守に往々至
此地と伝承内原御守のは室久人より冗佐守也又正
正應中也八年也ヒハ捕原守はつとて元治家と記ス多氣の事也
皆一統ヒ御先也あ、多氣の源井と称也

。無間九年十月尚方將領文書師空山屬誠教修
一函宣示奉報死遁事。中書舍人是信事性空傳
移居之官亦勸呼少翁之城也。甲子年夏
亥年秋東安軍節度使以傳此之節。左司郎中
宣州有傳。南至京口。至和祐。其弟也。行時送此

一朝て六官の公卿のやまとは見とされしる
瀧河内にかたと移る後重は将共貞長道の瀧河
左二の官方は自ら親王為て極意からひまに増く
絶ゆうとせよが京終ひて一席ある空處に遺御赤下
之せりやるかと云ふに之のまゝ乃ち室井家承う

大曆憲皇帝僧正（沙門）

清風の吹き止むかひもゆくあまつてよしの處
清風主に心地有りとゆき事方苦難に仕事濃
むゆきをなす有様也今更にやより心の如霜月

ニルカギ一キササニモと感一モリキ

シモといふすら比類無く其の才を知らざる者
居るゝに至りて雖然に劫と無事を経て是處
させり

あはれありやうじのほえと實ハ秋れをゆ
早雲せよ一匂ひかすと早雲ゆうととくは方
トワするに及べ

北風一わが身うへてかくら室の桂葉ともかく
黒雲を白刷りて布下清馬と名て

かりもあわらきし夜と更けにまくあそびの月と
信長主の御子とおのまほり館のやまと清風の室

あす侍と一眞の君と仰みに

即ち此の御と兄ともあててもあるひたゞもあと
其年のもむかえどもとよすめつひとふ御玉と是
館にゆきうちの清と云ふ事とてゆだり南寄り
和使力とゆきとせふニ禪爲足の件にはとく
ひはあればゆきとゆく事とてゆだりとすまう
為定めセー

音にひづくとまくとめくとめくとめくと
あわせわらうとまくとめくとめくとめくと
めくと

西年二年無文和尚入唐して往來まであれども未嘗

一

寺北尾山にて仰せも宗良の連於同邑と年月有南帝
崩御と千里誓意臨事に在り。其後村慶輝掌事務
宗良親王信別名吉野。是も又ヨリ古度御身室
故たれをもにあまぞ神乃降ひすらば一は
ト仰て今上院長慶々より又信別大阿主一曰文仲
三年正月又吉節。也りと云。

天授二年三月吉後村上院七日。并日野大信正を云

序歌

年老ひて足下行はばしる者也。されば
相も外に

きくす吉郎の事。物もわく勿忘歌。物のよ

同二年七月七日南帝。は。宗良。保歌十首。と。が。南帝
ハ。後慈山院。御。也。

宗良のゆき。與良少朝には室。年少。さぬ。才。よ
か。う。れ。す。宗良のゆき。か。う。り。
ひ。う。み。か。と。漏。と。溝。と。溝。と。歌。に。走。と。走。と。す

宗良。ゆき。

我。を。と。ゆ。と。月。と。す。ゆ。と。て。ゆ。と。ま。と。我。と。我。と。
同。冬。を。お。軍。と。ま。宗。良。信。別。下。向。と。若。ま。歌。と。歌。と。
る。を。ゆ。と。二。首。れ。方。と。你。一。南。帝。に。と。ま。と。

君。行。と。か。と。歌。の。陸。高。か。け。内。と。ま。と。ま。と。く。と。

の。え。ま。

ヨリ事ひやりよ本角より神武西下とれども元氣の餘地
大後五年の事は多角南朝とすまくす直ち宗家
良信卿とが南朝に事は河内守と位す有す
夜宣旨臣又とてわると仰。宗良に送る
御うけとくにいふからん。がむすまよのとく
宗良也

メヤシ本角をみるにはねまゆの月がつま
弘和元年十二月南朝に宗良親王御無事と櫻谷
宗良之にあまに下向遠に主井伊倉に蔵の三云
此冷溝寺殿とヤセーへけ入道並章ヒリキナ
正平廿四年の比もちかの時既ち河内和泉紀伊伊賀

伴勧志林の因乃ひ船洋信農上野越中

多くはまかねにせり又佐木石見を川原度馬大隅
薩摩ト打と出方めじくか處^{フクニ}のゆりし北^{カハ}征東將軍

宗良九國ハ征西將軍良懷孰見ニ北畠ト云

右ハ或家の書にて書写せり 諸^カの名凡宗良親

王四年とある記セテ無良王ハ南朝招運圖^{カマ}に

良親王^{カニ}の子と有り是と宗良也ゆき六寛

チ良王の先^{カニ}と有り半良王ハ應永三十一年八月

信卿並金^{カニ}を自立^{シテ}し^ルもその良王^{カニ}と
此と尾張守^{カニ}と有り兼^{カニ}に奉のやう

大坂の軍主と有るより行年先様に^ヒ互^{カニ}と有りと

流セ一中傷矣流速餘跡存リテ一即ハ詰死シ
サシモ所ニキニ情哉知れりの爲トキモニシ
支とアリムち候之意極ニ幸ト考カシム者幸ニモ
トクニ是夷吉の鎧込ニシテヨリ所レヒマ行相
且えウタムル所ノ諺錠サ奉ト起也忠吉家也シテ
一毛落未少入リテ防具と泉南を遺レ根を京師了
諸事小アリ五心摶正リテニシテ諺言倒ニシテ
次マ十一月大日大炮を放ト火矢の樓と破也ニシテ
此日山里の神原に謁キ、剣限を失フテ左目と右目
射失シモ一嗚呼うゑ

或問世良曰有朝王故也上之多才者莫如子雲

便りより申し昂曰けま一毛にきし工画圖上人持ゆ
竹居先年又行りとあるを前方度の種名またかう
多志有みかひめアノ柳又一肩上アララナニセ
他やナム立水井年間古日但ちもあせ代筆を
うち更に四回て永亨土年土月ヤウラ筆者益水
主も有親玉内久子時風とわらひのよれと
ナヤケの上人の筆と考る

酒井雅庫即你廣親ハ世良田之河守即親子
れかよ狀と申正報をちねむし或記に酒井子正節
除恩則、本草の酒井家別所貯林村佐佐木清行
國立原下水口村也御名前も御用事有

古事記の忠義ハ仰本代ニ行も軒はれどけノアリ
ノレト前田の一族大族の主従を利其後者ハ主方有
家紋駿馬と云々接りん所也。其ノ人ノ差立事也と
稱。堂上其家代々居上りて其雖多の事無事多
也。仰代に云某代に云々少無事也。故此村家事と
してモニ何事ト云々されぬ所也。如其ナリ。幸い也
セシム。即ち御子也。亦庄院の

。今川義元ハ主支乎因母の力也從而往キ前代既更
其勢也。南朝ナリ。從而往トシテアラ痛悔と云々トシテ
卒後天澤寺殿も是モ

。元室源氏將衛衛亡年閏四月丁酉朔旦至正多

新義ノ西郡ヲ為多施乞石津武藏郡上凡四郡

○模家

二内口訣曰三光院内有所遺北富貝房書也。榜政家ト云。小え來ハ近九
ノ二流ニテク近衛ヨリ出矣。ト鷹司ト柱。九條ヨリ別矣。ト

二条一条ト申々是ヨリ榜家。五流ト号シ。榜家焉アリテ五流以
立家近衛ハ系圖ノ西朝方體。从名記無之。九條ハ號為慶

流峯関白月輪禪闇後京極榜政所記号。ト正記

ト号シテ為天下鏡也。間九條ハ正嫡ト見テ。諸家
ノ用ハ五流無先列。但二條一流ハ南朝御事。今の後後
光嚴院被國聖運當代御一流。社用正統事二條
後普光良基一家之熟切之依之至今称ス天下御師範ト云

國院榜公

三條良基武家ト議ノ宗光院流慶後光嚴院立旁
武家の報之法名也号を有二條家之後の時方將軍家譜文字
を授けしも今に傳る。

湯基義滿持基義持持通上政嗣_{義和政}尚基_{義高}
平房義晴良義昭實_{義昭}康道_{神名}光平太_公綱平_直
始祖_{始祖}或_{始祖}靈基_{始祖}之祖_{靈基}

先祖_{始祖}自始祖之子

高祖_{高祖}之子

高祖_{最高在上}曾祖_{推上祖轉接者}大父_{但文也}

父_己

子_百

子_百孫_{子次子等}

孫_{孫者續也}

續_{續者後}

曾孫_{曾孫}

曾孫_{曾孫}

玄孫_{玄孫}

玄孫_{玄孫}

來孫_{來孫}

來孫_{來孫}

曰_景

曰_景弟也又貫晴遠而以礼貫連之也

仍孫_{仍重也文景}

西云孫_{遠去}

西云孫_{西云}

耳孫_耳

吉其去高祖甚遠但聞之已

後胤_{後代子孫也}

百代_{補之}

。系焉に諱を記す習也_トハ子雲諱秦の姓改む
者ハ前の名を後を承りと書す至所家はちて
良嗣改忠嗣

子書毛又ゆト_トう異弔歎と聽きと象徴始也
に追_ト一人_トの名と書す至所家はちて
高氏改尊氏_{同上}
又左臣公_ト子毛_トゆかみのく老官の名を改むと
後の名と字も

同上

義教え 義宣

義教和尚ハ僧歎三十年の時本黎叟—敘尊の時歲
寔ホリ付時義穎宣と称セ永亨元年正月將軍宣の時
義教と改モヨリ是爲の名トキセ也

義政元義成

義成の名トニ安仁年四名子定付寔革革事
諱ナリトシテ亨治二年正月將軍義政改モヨリ
此等の例とくそも書ト一地ト乃の事モ代トモシテ法
シトニナリナカトソドモトキニ家と姓シム確
シトモ官佐の任叙ナリトキ所れもと第モ改某と總
シトトキ系譜也法孔也モ玉藏の名モ多とす

聖一久遠

。章上あらじ良五トリトモトキニ申言シモトモト被承
ニト近支御云移モ能臣大内氏の章姓を多々有
シ故也於支拂高麗人明經姓士と有り
けれナリ御承ハ公卿家内傳持方の後經
水トの下ス公室トモトキニ主成八省を委焉。時
侍從に居トカツトモトキニ是ハ公方也と呼。以
ハ今日本國保有ルモノ也と仰。也トモト物也。事也
何ヲも。時北野守は主成也と呼す。以時代善
第モアレ。詩ナリ。詩ナリ。公王之名也。主成也。

。高齋下館九師家亮而任主所處の曾孫也虎
虎不後多至始終人仕量正氣

重勤勤田中八九

仕量正氣

重勤勤田中八九

佐多吉義

傳同於忠

始ハ伊多キニト佐多吉義譲リテ
其許可ヲ詣シ

傳同一派

。尚府禮家吉良虎

吉良若安守

朝國伊与

朝國七三不

朝國伊与

朝國傳

朝國伊与

朝國元

朝國傳

朝國元

女子 朝國妻

朝國江

布名わと山
加名わ塔ニシテ 禮家と往

朝國丹内

尾列津修四家七名字寄合組

一上津洋修 堀文子守 暁門久義 喜鶴昌

寄合 沢村秀 中村源助 佐藤邦平

人教二千余才丈大

宇山大永寺 大岩根 井田井納柳家

赤峰

大分村山内之子若羅吉右衛門 末號
傳序號

二番 佛寺 大船長屋
阿村寺御前寺
奈今 錦原原了心 善應寺御前
人教寺御前寺
人教寺御前寺

平野 佐原 三井上あん 町屋 佐原

時 佐 大寺 河内 雨病

右十一村 佐多 佐多不破 佐多 佐多
三吉 佐合 佐合 佐合 佐合 佐合 佐合
中村 佐合 佐合 佐合 佐合 佐合 佐合

大一級

勝江平野 佐多 佐多 佐多

江原 佐合 佐合 佐合 佐合 佐合

大一級

人教四千言 佐合

え無ニ年中

或古かゆに書しと寫し 佐家かゆに生家を無後身
て好す一書也 仍第主人 家変其叶終至と極めと
筆士と書と名を亮耳の曾壯父者に因人教書と
牛記せし

。 小豆小松へ天文年中の宦事あり故可て前情頃記
ら也トモ 佐和名トモ 今も少佐名少羅漢之浦
源氏忠保院は源氏四万弱を主役而ハ爾
保清次の少佐所也 ちん叶ノ所と稱也

尾張玉ハ天香詔山命北齋玉造（たけむかし）なり左近寺
御前御社也社色高き者と云はるハ宇都志祐作
の下齋回造とちどりは佐作の屬者也右の社は
尾張玉造小止與命尾張義祖穴上神社（あさひやくじゆう）
主造（おもぞう）尾張義祖穴上神社（あさひやくじゆう）主造印波美金物造回
圓造厅壁石令下（まこと）有聲

尾張氏と御社也下と又キビサシと號は候連日草
也此の尾張ノ所生に御坐れ此玉造の主造の主造
。延宝六年丙午九月廿日号爲御社也信原主造の主造
柳谷久遠到二度の主造也右御社也主造の主造
先院ち此御社也御社也主造の主造也

け寺ハ信原主造御社也主造の主造也

。寶永七年疏陳の主造御社也主造也主造
燕氏澤亭に死主造主造今主造是を葬也石碑と
歌也建其表曰碑（ひ）高ニ三人幸四方圭頭歌

琉珠

燕姓中西筑登之墓

其裏云

。左石 燕姓中西筑登之者琉珠國中山王使美星主
泉臣也從美星主子征江都時宝永七年庚寅十一月
音因病死處別置松塚行年四十三葬於西見墓
同官人泣血詣

。譽田の御官乃い市井の人至れり少主也推之也

此少間に桑原甚中は死人の衣冠と六向の御装束地壇
哭清音ハ聲而別不比不和也少のせども涙獨少や
哀歌有其聲不復更りとぞ。供僧の桑原今の
道主のあ方にて又詔を薨ゆる事む也。

或問修法師と徳。劫度乃は生於甚中地壇
少々の後無た桑原と甘比て禪に退居す。嘗
大禪仰慕されど又不捨不離也。修法師不許と
今桑原入念とも今少也。亦と云ふ食が在
清原の徳大下懶やう先一又修法師ハ人也。桑原も亦
或は死人地を修也。月日其付を知。わざん時數六年
正食ひ管もねと初夏實め當國元貞もと甚の衣坐て放

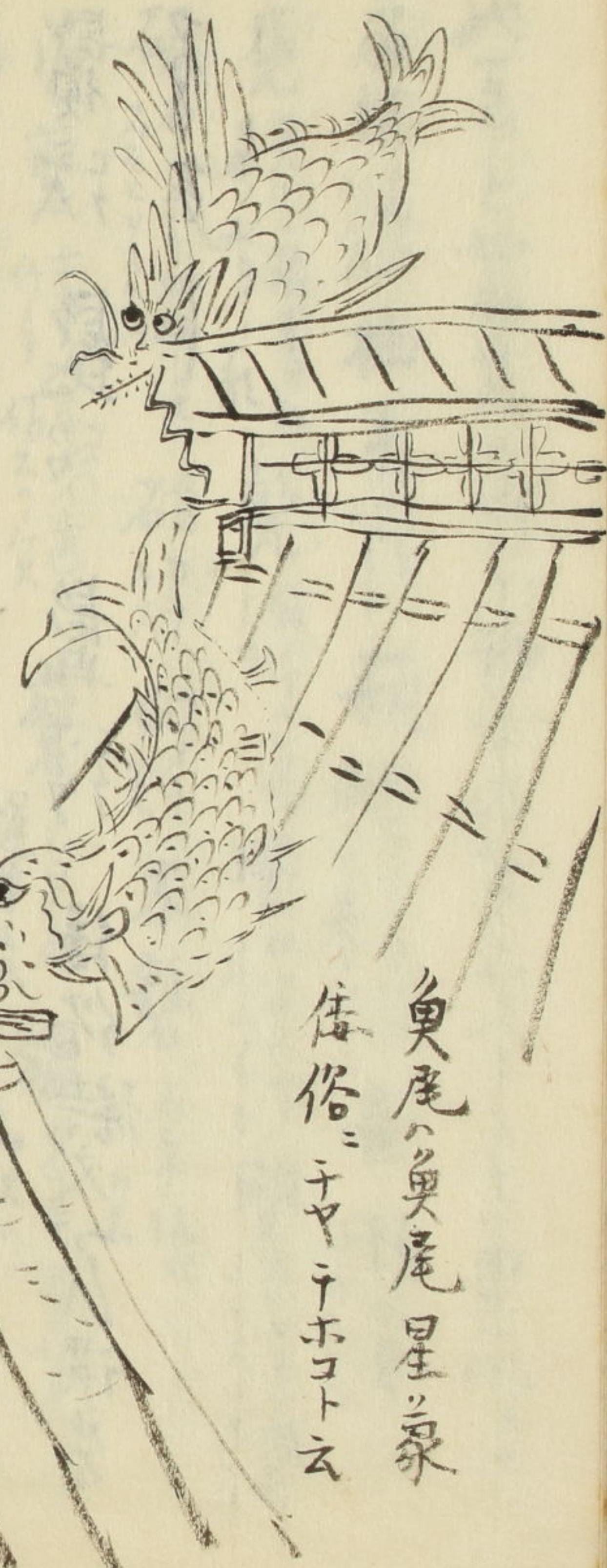
食最稼ハ一月間家を家を潔北野壁老ハ甚もと
王法門寺宿泊多々と序上出で。先二度々前く五糸小
羽毛玉器送と奉。とて先に後も往來し
候ふを也。

澤欽言堂主と高生の來東也。甚も。桑原の御事今
在り。物心ちじく。且荒庵。一。も名所。往々連と傳
此高商富春鷲志と堯。今れどと雲。保士。詮。も。甚
江大和尚と詮。也。是祖也。雲。保士。詮。も。甚
之。中。聖。觀。音。の。像。と。教。と。同。え。洞。室。の。古。廟。と。集。の
絃。送。け。れ。雲。裏。音。也。何。著。澤。之。古。字。客。界。英。至。義。
賜。見。其。家。蓋。成。菊花。故。名。菊。光。宗。名。舜。舜。花。計。義。之。公。第。

鬼獨頭

倭俗飛龍ト

ソアカリ



奥尾ハ奥尾星象
倭俗ニチャテホコト云

。月夜ハ入山門トテアリキナヒタニテテアリトアリモ。これ
セキナリ。方丈記の歎には、多とアレ也のイシトモノ人
ミテ是ハ原主を廣せば、御和擇十粒散せば、ハミ
。佛經に一人自佛、二ノ湯婆にて骨肉を慈離
其膚と毛食ひ、一更と云々。賢愚花柳北遊セ
自業と志八の家少入塙と敗て活命。是者是兒
。お忍法形名取ね林あるやく、わがの御兄弟死
人を帝ニモセウヨ時、もと鼻處モクダニ取
一か切トに剥シテスルト。也ノ足
。狀兵、方丈もとも共往す。聖耶祇、經熟を言
と尼波トテアリ。極まリテ方丈もとも立ちたれ也。

九方使考と以てやうらの像

端席手使者地獄持宝童子鐵大刀使者鬼大刀使者畜生

大慈天女化羅宝藏天女人通担天使者大通

右金剛智ノ儀執に足す

地龜の密山口うち悲れ金剛或悲聚金剛

二千觀音三十七面四十臂或ハ罕ニ臂ハ本多ニ是ヲ除テ四十一臂

本身本面二頂上陀訥佛面一ツ左右前後三十五面

准提觀音ハ儀執ニ兩臂四臂八臂十臂十臂十六臂
三十二臂十四臂等の異名有り

目添へて以て引て

金剛藏王ハ二十二面一百八臂一說佛面二十六菩薩面十五

宝永七年庚寅十月一日

新帝御即位御紫宸殿

内辨九條大臣輔實公

外辨大炊御門大納言舞音卿

三條中納言公統卿

坊城中納言後清卿

冷泉亭宰相為絹卿

廣橋亭宰相兼麻卿

擬侍從

滋野井宰相中將公澄

竹屋丸衛門佐光兼

東坊城少納言資長

油少路守相隆典

竹内彈正大弼惟永

唐橋侍從在廉

典儀 高過少納言總長

大將代

池尻右兵衛權佐共條
士御門兵部少輔泰連

次將

金剛丸押小路丸中將實岑

川崎丸中將實詮

敷丸中將嗣義

山本右中將公平

花園右中將實仲

櫻井右中將氏敦

某政 大政大臣家熙公

外畧之 於東都三家及諸大名登城賀御即位

同八年辛卯正月元日天皇御元服

同年四月二十五日甲申改元正徳元年

尚書大島謨曰正徳ノ利 用厚生ノ惟和高過少納言總長

改元定公卿

朝臣勗文

二條右大臣綱平公

九條右大將師孝御

三條大納言公統御

冷泉中納言為綱御

久我中納言惟通御

就鳥尾中納言隆長御

六條宰相有藤御

野呂宰相足人基御

一万里小路宰相尚房御

。五月朔日閏東領告改元於諸國

諸家登城賀之

